

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 12月 8日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 春 ( 広島県 )
評価調査員の氏名	氏名 延平 和子 氏名 豊田 美江
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 石津 ひで子 ・大崎 ゆかり ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## グループホーム [ グループホーム 春 ]

## 1, 調査報告概要表

広島県認定地域密着型サービス外部評価機関  
特定非営利活動法人 あしすと

## 【評価実施概要】

事業所番号	3491500181	(※評価機関で記入)
法人名	医療法人 紅萌会	
事業所名	グループホーム 春	
所在地	福山市港町1丁目15番30号 (電話) 084-922-0998	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 12 月 8 日	

## 【情報提供票より】(# 年 # 月 # 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 18 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 10 人 非常勤 5 人 常勤換算 14.1 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1400 円	

## (4)利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 88.4 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 21年12月28日

近隣には公共施設や大型スーパー、商店などがあり、利便性がよい。また、老人保健施設、ディサービスが同一の建物の中にあり、3階と4階が事業所となっていて常に交流を持ち、お互いに協力し合い研修会を実施し、サービスの質の向上に努めている。運営者が医療機関のため利用者も家族も安心である。職員は常に家族との信頼関係を築きながら、利用者一人ひとりの意思を尊重したケアに取り組み、ゆったりした生活、馴染みのある生活の維持をめざし、日々取り組まれている。利用者の希望や要望を取り入れた定期的な行事計画を立てた楽しみごとや一人ひとりの生活歴を活かし、生きがいの持てる生活ができるよう支援されている。職員同士の関係も良く明るい雰囲気が感じられた事業所であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は真摯に受け止められ、前回の改善課題であった災害対策である避難訓練に地元の方々の参加を得る等、出来る課題から全職員が共有され取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については意義を理解され、ミーティングの中で職員全員の意見を聞き取り管理者が作成された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、利用者家族、町内会長、民生委員、行政担当者、包括支援センター、職員等の参加の下、事業所の現状報告や問題点、困難な事例、評価の改善点を報告し、話し合い、それぞれの立場の方々の意見を真摯に受け止め、それらをサービスの質の向上に活かしていくよう取り組まれている。毎回有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との信頼関係を大切に、訪問時などに苦情や意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。その中で出た意見や要望については職員間で共有し運営に反映させている。意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域行事に参加したり、隣の公園に散歩に出かけた際、気軽に声かけをしたり、その草取りなどをされ顔見知りの関係に努めている。町内会長さんを通じ地域との交流にも積極的に取り組んでいる。火災訓練にも地域の人が参加され、協力体制ができつつある。

## 1, 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3491500181	(※評価機関で記入)
法人名	医療法人 紅萌会	
事業所名	グループホーム 春	
所在地	福山市港町1丁目15番30号 (電話) 084-922-0998	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 12 月 8 日	

## 【情報提供票より】(# 年 # 月 # 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 18 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 10 人 非常勤 5 人 常勤換算 14.1 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1400 円	

## (4)利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 88.4 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 21年12月28日

近隣には公共施設や大型スーパー、商店などがあり、利便性がよい。また、老人保健施設、ディサービスが同一の建物の中にあり、3階と4階が事業所となっていて常に交流を持ち、お互いに協力し合い研修会を実施し、サービスの質の向上に努めている。運営者が医療機関のため利用者も家族も安心である。職員は常に家族との信頼関係を築きながら、利用者一人ひとりの意思を尊重したケアに取り組み、ゆったりした生活、馴染みのある生活の維持をめざし、日々取り組まれている。利用者の希望や要望を取り入れた定期的な行事計画を立てた楽しみごとや一人ひとりの生活歴を活かし、生きがいの持てる生活ができるよう支援されている。職員同士の関係も良く明るい雰囲気を感じられた事業所であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は真摯に受け止められ、前回の改善課題であった災害対策である避難訓練に地元の方々の参加を得る等、出来る課題から全職員が共有され取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については意義を理解され、ミーティングの中で職員全員の意見を聞き取り管理者が作成された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、利用者家族、町内会長、民生委員、行政担当者、包括支援センター、職員等の参加の下、事業者の現状報告や問題点、困難な事例、評価の改善点を報告し、話し合い、それぞれの立場の方々の意見を真摯に受け止め、それらをサービスの質の向上に活かしていくよう取り組まれている。毎回有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との信頼関係を大切に、訪問時などに苦情や意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。その中で出た意見や要望については職員間で共有し運営に反映させている。意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域行事に参加したり、隣の公園に散歩に出かけた際、気軽に声かけをしたり、その草取りなどをされ顔見知りの関係に努めている。町内会長さんを通じ地域との交流にも積極的に取り組んでいる。火災訓練にも地域の人が参加され、協力体制ができつつある。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念個を尊敬し、尊厳を保ちながら、のんびりした生活、趣味を生かした生活を提供しながら、その人らしい生活を支援されている。地域の中でその人らしく暮ら					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個を尊重し、尊厳を保ちながら、のんびりした生活、趣味を生かした生活を提供し、その人らしい生活を支援していく。という思いで作上げられた事業所独自の理念、方針は掲げられている。	○	法人理念、方針と共に、地域の中で地域の一員としてその人らしく暮らし続けられる事を支えていくという、地域密着型としての理念を職員全員で作上げられ、それらをケアに活かす取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりの名札の裏側に理念が書き込まれたいため、日々のケアの中で迷いが生じた場合は理念を振り返りながら、全員で共有している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事に参加したり、隣の公園に散歩に出かけた際、気軽に声かけをしたり、その草取りなどをされ顔見知りの関係に努めている。町内会長さんを通じ地域との交流にも積極的に取り組んでいる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解されている。自己評価は項目ごとに分け全職員の意見を取り入れ話し合い管理者が作成された。外部評価の改善点については真摯に受け止められ全員で共有し出来るところから改善に取り組まれた。振り返る機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、利用者家族、町内会長、民生委員、行政、包括支援センター、職員等の参加の下、現状報告や困難な事例、評価の改善点などを報告しそれぞれの立場の方々の意見を真摯に受け止めそれらをサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難な事例が生じた場合など自分達だけで解決せず相談に行くなどされ、アドバイスや情報提供を得、サービスの向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や月1回の金銭管理の報告の際、個々に合わせて暮らし振りや身体状況など伝えている。また職員の移動があれば随時報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を大切にし、訪問時などに苦情や意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。その中で出た意見や要望については職員間で共有し運営に反映させている。意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、同法人は複合施設となっていて常に交流があり顔見知りの関係が出来ているためダメージは少ない。やもう得ず離職されても時折顔を出されるという配慮をされるので利用者への影響は少ない。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は伝え希望により参加し、内容については勉強会で全職員に周知している。内部研修については月1回の法人内の勉強会に参加し、ケア面や医療面についてそれぞれの職員の段階に応じた研修を受けられる体制が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣の事業所との交流を行っていたが、諸事情により出来ていない。	○	同業者との交流を持つことにより、お互いの情報提供やアドバイスを獲得する事と共に、勉強会や相互訪問の活動を通じて、サービスの質の向上に繋げていくとくみに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族からの情報を把握し、まず見学や一日体験をしてもらいお互いに納得された上で利用開始となっている。法人内の老人保健施設からの入居の場合はその事業所にたびたび訪問し馴染みの関係が出来た時点で利用開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりを尊重し会話をする時間を多く持ち、昔話を通じ学ぶ事も多く、また、労いの言葉かけをしてもらい場面もあり、お互いの信頼関係づくりに努め支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から把握するよう努めそれぞれの希望や意向に添うようにしている。困難な方には表情や生活歴の中から把握し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を決めアセスメントをし、家族の意見を聞きそれらを基に担当者会議や全職員参加のカンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成し家族の承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価をし、その中での課題を基に3ヶ月から半年の見直しをしている。状態が変化した場合は家族、職員で話し合い、医師の指導を得ながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、皮膚科など他科への受診への同行支援、またリハビリを希望される場合の同行なども柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によりかかりつけ医の往診もある。また、協力医療機関は週1回の往診や要望により訪問歯科の往診も受けられ常に適切な医療が受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針も作成し、本人、家族、医師、職員で話し合いをされ、家族の希望や要望も聞き取り方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切にされ、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしない様に職員間で注意し合い支援している。記録等の個人情報についても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう、それぞれの状態や生活歴を基に希望にそった支援ができるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量により下ごしらえや盛り付けなど職員と共に準備され、キザミ食などそれぞれの身体状況に合わせた食事形態となっている。職員も一緒に食卓を囲み、談笑しながら楽しい食事時間であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間帯は決められているが、希望を優先し毎日でも入浴出来る。また、時間帯も要望に添った支援をしている。拒否の場合は無理強いしないよう色々工夫され清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	公園の花壇の草取り、料理の下ごしらえや味付けなど力量に合った役割を持ってもらい張りのある生活が出来るよう支援している。生活歴を活かし、お菓子作りや趣味などで気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声かけなどで希望を聞き、季節ごとの外出、買い物、散歩など要望に添った支援をし、できるだけ戸外に出かけられる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。3、4階の事業所のためエレベーター使用となっているが自由に出入りできる。一人ひとりの状態を把握し声かけや見守りを徹底している。外出傾向の人には無理強いせず納得されるまで付き合い対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練・避難訓練は昼間と夜間を想定して年2回実施している。訓練には地域の方5名の参加があり地域との協力体制が得られた。今後も引き続き定期的に訓練を積み重ね全職員が自信を持って対応出来るよう取り組みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせて、1日を通じて確保したい食事の量や水分量を毎日記録している。食材が重ならないよう栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じられる手作りの装飾品が飾られていて、リビングも広く不快な臭いもなく、料理を作る音やご飯の炊ける臭いが感じられ生活感のある共有空間で居心地良く過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ち込まれ、その人らしく工夫された居室で居心地良く過ごされている。		

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念個を尊敬し、尊厳を保ちながら、のんびりした生活、趣味を生かした生活を提供しながら、その人らしい生活を支援されている。地域の中でその人らしく暮ら					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個を尊重し、尊厳を保ちながら、のんびりした生活、趣味を生かした生活を提供し、その人らしい生活を支援していく。という思いで作上げられた事業所独自の理念、方針は掲げられている。	○	法人理念、方針と共に、地域の中で地域の一員としてその人らしく暮らし続けられる事を支えていくという、地域密着型としての理念を職員全員で作上げられ、それらをケアに活かす取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりの名札の裏側に理念が書き込まれたため、日々のケアの中で迷いが生じた場合は理念を振り返りながら、全員で共有している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事に参加したり、隣の公園に散歩に出かけた際、気軽に声かけをしたり、その草取りなどをされ顔見知りの関係に努めている。町内会長さんを通じ地域との交流にも積極的に取り組んでいる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解されている。自己評価は項目ごとに分け全職員の意見を取り入れ話し合い管理者が作成された。外部評価の改善点については真摯に受け止められ全員で共有し出来るところから改善に取り組まれた。振り返る機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、利用者家族、町内会長、民生委員、行政、包括支援センター、職員等の参加の下、現状報告や困難な事例、評価の改善点などを報告しそれぞれの立場の方々の意見を真摯に受け止めそれらをサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難な事例が生じた場合など自分達だけで解決せず相談に行くなどされ、アドバイスや情報提供を得、サービスの向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や月1回の金銭管理の報告の際、個々に合わせて暮らし振りや身体状況など伝えている。また職員の移動があれば随時報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を大切にし、訪問時などに苦情や意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。その中で出た意見や要望については職員間で共有し運営に反映させている。意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、同法人は複合施設となっていて常に交流があり顔見知りの関係が出来ているためダメージは少ない。やもう得ず離職されても時折顔を出されるという配慮をされるので利用者への影響は少ない。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は伝え希望により参加し、内容については勉強会で全職員に周知している。内部研修については月1回の法人内の勉強会に参加し、ケア面や医療面についてそれぞれの職員の段階に応じた研修を受けられる体制が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣の事業所との交流を行っていたが、諸事情により出来ていない。	○	同業者との交流を持つことにより、お互いの情報提供やアドバイスを獲得する事と共に、勉強会や相互訪問の活動を通じて、サービスの質の向上に繋げていくとくみに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族からの情報を把握し、まず見学や一日体験をしてもらいお互いに納得された上で利用開始となっている。法人内の老人保健施設からの入居の場合はその事業所にたびたび訪問し馴染みの関係が出来た時点で利用開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりを尊重し会話をする時間を多く持ち、昔話を通じ学ぶ事も多く、また、労いの言葉かけをしてもらい場面もあり、お互いの信頼関係づくりに努め支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から把握するよう努めそれぞれの希望や意向に添うようにしている。困難な方には表情や生活歴の中から把握し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を決めアセスメントをし、家族の意見を聞きそれらを基に担当者会議や全職員参加のカンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成し家族の承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価をし、その中での課題を基に3ヶ月から半年の見直しをしている。状態が変化した場合は家族、職員で話し合い、医師の指導を得ながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、皮膚科など他科への受診への同行支援、またリハビリを希望される場合の同行なども柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によりかかりつけ医の往診もある。また、協力医療機関は週1回の往診や要望により訪問歯科の往診も受けられ常に適切な医療が受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針も作成し、本人、家族、医師、職員で話し合いをされ、家族の希望や要望も聞き取り方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切にされ、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしない様に職員間で注意し合い支援している。記録等の個人情報についても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう、それぞれの状態や生活歴を基に希望にそった支援ができるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量により下ごしらえや盛り付けなど職員と共に準備され、キザミ食などそれぞれの身体状況に合わせた食事形態となっている。職員も一緒に食卓を囲み、談笑しながら楽しい食事時間であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間帯は決められているが、希望を優先し毎日でも入浴出来る。また、時間帯も要望に添った支援をしている。拒否の場合は無理強いしないよう色々工夫され清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	公園の花壇の草取り、料理の下ごしらえや味付けなど力量に合った役割を持ってもらい張りのある生活が出来るよう支援している。生活歴を活かし、お菓子作りや趣味などで気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声かけなどで希望を聞き、季節ごとの外出、買い物、散歩など要望に添った支援をし、できるだけ戸外に出かけられる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。3、4階の事業所のためエレベーター使用となっているが自由に出入りできる。一人ひとりの状態を把握し声かけや見守りを徹底している。外出傾向の人には無理強いせず納得されるまで付き合い対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練・避難訓練は昼間と夜間を想定して年2回実施している。訓練には地域の方5名の参加があり地域との協力体制が得られた。今後も引き続き定期的に訓練を積み重ね全職員が自信を持って対応出来るよう取り組みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせて、1日を通じて確保したい食事の量や水分量を毎日記録している。食材が重ならないよう栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じられる手作りの装飾品が飾られていて、リビングも広く不快な臭いもなく、料理を作る音やご飯の炊ける臭いが感じられ生活感のある共有空間で居心地良く過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ち込まれ、その人らしく工夫された居室で居心地良く過ごされている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 春（ユニット3階）

評価年月日 2009年12月8日

記入年月日 2009年10月20日

記入者 代表/管理者 氏名 石津ひで子

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	手芸、家事など馴染みある事を忘れないように提供している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	交流の機会を増やしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	町内会による公園の清掃に、参加したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の把握は、できていない。	○	地域の催しがあれば、参加して顔なじみとなり、輪を広げていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価後、改善できる点は話し合いをし、少しずつ努力している。	○	地域の方に消防訓練に参加協力して頂いた。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生かすよう努力している。	○	市よりの情報で、地域の方より苦情あり公園での野菜作りを中止した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	運営推進会議には、毎回来て頂いているが、他の日に行き来することは殆んど無い為、今後は行き来するようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会で学んではいるが、参加できない職員もおり、全員の理解は得られていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、虐待などの話し合いも行い、日々の生活の中での言葉遣いについても職員間で話し合っている。	○	「言葉」については、注意し合い、常に尊敬の念を持って接している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	二人以上の家族等の同席の上で、納得されるまで説明し、疑問に答えて、理解された上で契約を交わしている	○	契約内容についての再度の質問には、家族などの気持ちを充分理解した上で納得いくように説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言える雰囲気作り、コミュニケーションを図るように努めている。何気ない一言にも意味があると意識して、より良い関係が築けるよう努めている。	○	利用者の表情からも不満や訴えを汲み取るよう努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行っている。	○	面会時には、近況報告、健康状態の変化には電話を使って報告。金銭は月1回領収書を渡し、残金確認とサインを頂いている。職員の異動については、その場面でお伝えしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等との信頼関係を大切に、何でも言って頂ける雰囲気作りを心がけ、意見が出たら、スタッフで話し合いより良い運営ができるように努めている。	○	苦情箱を設置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や、都度話し合いをし、より良いケアができるように心がけている。	○	1年に2回GH全体会議を行っている。その前に事務部長による個人面接がある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は、職員の協力もありできている。	○	利用者の急変については、個々の役割を実践し、協力調整できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に努め、離職者による利用者へのダメージは、職員のフォローもあり、ないと思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、できるだけ参加するようにしている。	○	場面場面での指導を的確に行うよう配慮している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ1年でできていない。	○	地域の同業者との交流、勉強会は必要だし、機会を作って行いたいと思っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員とのコミュニケーションを図り、健康状態、精神状態の把握に努め、より良い環境作りに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握し、研修への参加を促し、その後勉強会をし、向上心を持って働けるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の生活の中で、様子の変化を見逃さないようにし、声かけや、傾聴に努めている。	○	不安に対して素早く対応し、安心して生活していただけるよう心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	機会ある事に話を聞き、不安を取り除くようしっかりと話をし、信頼関係を築くよう努めている。	○	築き上げた信頼関係を崩さないようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と共に話し、希望されるサービス又は、本人さんに必要とされるサービスを利用できるよう努めている。	○	週5回リハビリを受けにHPへ行かれる。OTによるリハビリを週1回受けている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	している。	○	家族の面会時に、利用者の様子を伝えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人との交流時間を大切に、コミュニケーションを持つことで良い関係が築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント参加や本人さんの様子から必要に応じて面会に来ていただいたり、面会時には報告・相談し、共に支援できるよう努めている。	○	利用者と家族との外出。写真で利用者の様子を知っていただく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に心がけている。	○	家族をテーマとした話は笑顔が見られる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に協力をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。	○	毎日の出来事などを情報交換することでより良い環境で過ごして頂けるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	している。	○	入院されている方には最低でも、月に一度は会いに行っている。隣の老健に行かれた方には都度話かけている。退去された家族の方との交流も続いている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で把握できるよう努めている。	○	職員、家族とで本人に良いと思われる方向性をとっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族の話と、日々の生活で職員間でも本人の希望に沿うよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。	○	心身状態は日により違いが見られるので、その日の状態を知り対応できるよう努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実行している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実行している。	○	より良く過ごしていけるよう、視野を広げ、検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに担当者がついており、変化や気づき等記録している。カンファレンスにて介護計画の見直しを行い、各々に合わせた介護計画が出来るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリを希望される利用者には、主治医の指示のもと、病院へ送り迎えを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大きな行事には、ボランティアの方の協力を得ている。消防訓練では消防署の協力を得ている。チャレンジウイークには中学生が来られた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議時、話を伺ったり、長期的なケアマネジメント等の話はしている。	○	権利擁護等について、より以上の協働ができるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度訪診あり。体調不良時等は連絡し、対応してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者、職員が、医師に何でも相談できる関係作りが出来ており、指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師との連携を密にしており、健康管理や、医療活用の支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院関係者との情報交換は密に行っている。		密接
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、説明をして、家族等も意識を持っておられるが、様態の変化に添って、医師も交えて話し合いをし、スタッフも全員で方針を共有している。	○	終末期のありかたについて、家族などの思いをアンケート様式に記入して頂いている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	元気に入居された方も、年々、体力の低下や、持病の悪化で変化していかれる。医師の指示の元、家族等の希望に添ったケアができるよう努めていく。	○	看取りの希望に添えるようチーム作りをしたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。		他の施設へ移られる場合は、十分な情報提供をするようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーの大切さを理解しており、それらを損ねたり、傷つけるような対応をする事がないよう、注意しあっている。記録、個人情報は鍵のかかる場所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が、職員に、自分の意思や希望を言う事が出来る関係作りをしている。自己決定を尊重するようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に配慮しながら、利用者の意思を尊重し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望が出た時に、美容師さんに来ていただき、本人の望まれる髪形(パーマ、カット)をされている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、味見、盛り付けなど一人ひとりの持つ力に合わせた役割を職員と一緒にしている。食事は、同じものを会話をしながら楽しくとっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一ヶ月に一度、利用者に食べたい物を聞きメニューに取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯、曜日は決めている。利用者の体調不良や、拒否される時は無理強いせず、中止している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者に応じた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、それに応じた楽しみができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方にはしているが、出来ない方には家族から預かって管理者が行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等に出かけられるよう声かけを行っている。	○	近くのポートプラザへお茶をしに行く。(おやつを兼ねる)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、バラ公園など遠出する機会もあり、家族にも協力していただけるよう連絡している。	○	お花見、バラ公園、外食

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者の希望がある時に対応している。手紙もポストに投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるように声かけをしている。訪問時、楽しく、ゆっくり過ごして頂けるよう、お茶などの配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、自由に出入りすることができる。利用者の行動を把握し、声かけや見守りを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜の巡回、日中の様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を利用者が持っている場合、物品の把握し、危険を防ぐように取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ひやりはっとなどにより改善、事故防止に取り組んでいる。	○	事故対策委員会を設置し、事故の再発防止に取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、火災訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、家族と連絡を取って対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	急変、異常の早期発見のためにも日頃の状態を把握し発見時には管理者に連絡をとったり、病院へ連絡適切な対応が出来るようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書き、副作用の注意点をファイルし、職員が理解し、服薬支援、症状の変化の確認に努めている。	○	誤薬事故がないように3回の確認を義務づけている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	している。毎日10時にはフルーツヨーグルトを食べてもらい、水分補給、散歩などを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い自力で出来ない方には介助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー制限、塩分、蛋白質の制限等を考えながら6つの食品群のバランスを考えながら調整し、食事提供出来るよう努力している。	○	骨粗鬆症、便秘、義歯の不整合など、個人個人の状況を充分とらえて、その日、その時間の体調に応じた調理を工夫したり、希望のメニューを取り入れたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作成しており、全職員が注意を払っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は高温消毒、塩素系漂白剤で漂白と雑菌。食材は新鮮な食材を提供するよう衛生管理を行っている。	○	食材(肉類、魚類、野菜類、穀物類、調味料等)の保存方法を適宜工夫して、安全に使用と管理を努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自動ドアを開放して、季節感を取り入れた展示物や手作りの作品を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西陽の強い時期には、よしずを設置。季節の花や手作りのものを飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってくつろいだり、テーブルに気の合った人が座って談笑したりされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活状態を見て、家族の方に協力して頂き居心地の良い居室作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の好みの室温に調節している。換気扇や窓の開閉で、不快な臭いがないように努めている。清浄機、加湿器も使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあり、個人の機能に応じた使い方をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	難聴の方には、筆談、ジェスチャーで意思疎通を図って、納得しての行動を心がけている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上、ベランダで陽を浴びたり、ベランダで花作りをして、楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者個々の意思を尊重し、ゆったりした生活、馴染みの生活の維持を目指して、日々取り組んでいます。

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 春（ユニット 4階）

評価年月日 2009年 12月 8日

記入年月日 2009年 10月 20日

記入者 代表/管理者 氏名 大崎 ゆかり

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	プレインストーミング法を行い、職員全員で話し合い理念を作成した	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を共有し実践出来る様日々取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	解かりやすい場所に理念を書いた物を置き家族が来られた時に理解して頂けるよう説明する	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員が日常の中で隣近所のグループホームへ利用者と一緒に訪問しコミュニケーションが図れる様に努めている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事等を行い隣近所に声掛けし参加して頂き交流が図れる様支援している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	グループホームの利用者と取り組める事があればして行きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価後、運営者・職員で改善出来る様、努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	運営推進会議等、声掛けを行い行き来出来る様にしていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月1回勉強会を開いている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	行っている	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と職員が話しが出来る環境作りをしているが、不満や苦情が直接言えない場合にはご意見箱を設置し活用している</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	行っている	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と日頃からコミュニケーションを図り意見・不満・苦情が言いやすい様に心がけている。また、言い難い場合の為にご意見箱に書いて頂く様に声掛けし活用している</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に1度カンファレンスを行い、職員同士意見が言える様にしている	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	緊急時も含め職員全員勤務の調整に協力している	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	行っている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に対する法人内外の勉強会に参加する様に働きかけ、法人外の研修に参加した職員に勉強してきた事が活かせる様他職員に勉強会を開き研修の共有を図っている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者と職員みんなコミュニケーションを図りストレスの無い様工夫している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれが定期的にある研修に参加しその内容を職員全員が共有出来るように勉強会を開き向上していけるように努力している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	行っている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	行っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と一緒に話し合い本人にとってより良いサービスが受けられるように他のサービス利用も含めた対応を行えるよう努めている	○	通院の送迎・マッサージの利用
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、日常の会話や手伝いをして頂きながら近年と昔の違いなどを学んだり支えあう支援を行えるよう努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が訪問された時などに本人の喜怒哀楽を伝え家族の協力をお願いし一緒に支援して頂けるよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行っている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	馴染みの場所に利用者一人ひとりを連れて行く事は難しく家族の協力も全員にして頂く事は困難と思われる為少しずつ行えるよう努力をしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方に会った際声を掛けたり入院にお見舞いに行ったりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き困難な場合は家族の協力をえる		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際本人や家族から情報収集しこれまでの暮らしの把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		○	職員間で心身状態を把握している人・把握していない人がいる為、全員が把握出来るようにして行きたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望体調に合わせて行える様にカンファレンスで話し合い家族へ伝え本人家族の希望に近づけるように介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急変等が起きた場合職員・家族等で話し合い現状に適した計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録に個々に記入し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	努力している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出時等ボランティアの方に声をかけ支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域や他ケアマネジャー・サービス事業者との話し合いを地域包括の声掛けにより参加		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括と協働していけるよう努力したい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回かかりつけ医の訪問診療が来られ必要に応じて毎週又は隔週にて受診出来るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月に4回病院より訪問診療に来て頂き必要に応じて毎週又は隔週で治療を行ってもらっている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣の老人保健施設の看護師に利用者の状態を把握して頂き健康管理・医療面の支援をして頂いている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した場合毎日様子を見に伺い病院の看護師などに状態を聞いている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	終末期を迎えた入居者がいたら本人・家族の希望に備えるようにしたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の家族には急変時の対応についての希望確認をしている	○	出来る事出来ない事を知っておく必要があるので話し合う必要あり
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が好きな事をして気を紛らわしてもらうなど気分が落ちないように十分に配慮している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重するよう全職員に教育しているが一部不適當な声掛けをし入居者を不快な思いをさせる者がいる。個人情報の取り扱いには十分注意している	○ 今後も教育・指導を行い職員全員のレベル向上に向け努力する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に意見を聞き自己決定出来るよう努力している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援をしている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人希望ある時は家族の協力を得ながら行えるよう努力している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下ごしらえや味見・盛り付けなどをして頂いている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時にはその時飲みたい物をお伺いしお出しするようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄リズム（パターン）をつかみ失敗なくトイレで排泄出来るよう努力している。なるべく布パンツ使用を心がけている（布パンツ+パット）	○	より正確な排泄パターンをつかみ尿とりパットなども使用せずに生活出来る様にしていきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	19時以降夜勤者のみになる為夜の希望には対応出来ない体勢であり厚みのある体制が望まれる	○	職員の勤務時間帯の検討をして行きたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状態を観察・把握し本人の意思を尊重しながら臥床を進めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に得意な事などを伺いそれを生かせる場合が増やせる様努力している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る入居者には自身で任せるが、自己管理出来ない方は職員で管理している。買い物に行った時は出来るだけ自分で支払い充実感を味わってもらえるようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があったり天気の良い日などは隣の公園へ出かけたりグループホームの周りを散歩したりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を仰ぎ外出の機会を作る努力をしている。職員も時節行事など利用し気分転換が図れるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが電話をしたいと言われた時は職員が手伝ってかけている。手紙を書いているの内容を読んでと言われた時には読み、返事をどうするかなど確認し支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が来られた時は居室やリビングに椅子を用意し入居者と過ごせる様にしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		○	全ての職員が把握しているとは思えない。職員が正しく理解出来る場などを設ける場（勉強会など）して身体拘束について正しく知る必要がある
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		○	鍵をかけないケアを心がけているが入り口出てすぐが階段であり危険。常にオープンにとは考えてはいるが職員の都合で鍵を閉めている時もある
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日誌の記入などイニシャルで書く様にしている。居室など閉められている時はこまめに訪室していく		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の行動範囲に応じてコードや椅子などの配置に注意し危険がより少なくなるように努力している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		○	今は出来ていないがこれから話し合いを設け一人ひとりの状態に応じた事故防止対策に取り組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を開き行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接の老人保健施設と協力し火災訓練を行っている	○	町内会長さんに火災訓練の声掛けを行い地域の方も一緒に火災対策に協力して頂けるようにしていきたい(町内会長さんに声掛けはしているがまだ火災訓練に参加していただけてない)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の協力のもと行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	協力病院又は隣接の老人介護施設の看護師・医師と協力し対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員全員が見る事が出来る所に置いて、目的や副作用などを理解出来るよう努めている。又服薬時の支援を行い症状の変化の確認に努め薬の変更時には全職員に解かるように申し送りに努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔清拭を心がけて支援しているが毎食後出来なくとも睡眠前には必ず口腔清拭が出来るよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量・水分量の把握出来るようにしている 食事・水分量の少ない方は家族の協力のもと嗜好の物で補っている	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種をして頂き感染予防に努めている。又職員からの感染が起きないように職員も予防接種している	○ 疥癬・MRSAなどの感染症の知識向上の為に勉強会を開いていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2日おきに買い物へ行き新鮮な食品を使用し調理している 調理器具などは食洗機にて高温消毒をしている	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や置物を置き安心して出入りしやすい環境作りを心がけています	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や手作りの物を置き居心地良く過ごしていただける様心がけている	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間はリビングを活用し同居者とのコミュニケーションを図って頂くようにしている。又、一人での時間を過ごせるように北廊下に椅子を置き外を眺めながら一人の空間がもてるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き居心地の良い居室作りに努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレがわからない方など「便所」と張り紙など自立して暮せるよう工夫・努力している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには利用者の好きな花などを育てたり、隣の公園でも町内会長の協力を得て季節の花を育てている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりのペースに合わせた生活が出来るよう、又利用者のしたい事を把握し支援出来るよう家族と協力しながら努力している